

第4回 東アジアキリスト教交流史研究会

エクステンション in Fukuoka

2014年 5月〇日

関係各位

東アジアキリスト教交流史研究会
運営委員

拝啓

みなさま方におかれましては、時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、神戸での第3回ワークショップで決定されたとおり、第4回東アジアキリスト教交流史研究会は、「エクステンション in Fukuoka」として発足後初めて福岡で行うこととなりました。今回は二日目に「世紀転換期と東アジアのキリスト教一日清・日露戦争をめぐって」と題したシンポジウムを企画しています。

研究発表もしくは参加を希望される方は、申込用紙に必要事項を記入の上、6月13日（金）まで下記アドレスまでお送りください。

記

日時：2014年7月25日(金)～26日(土)

場所：福岡女学院大学 <http://www.fukujo.ac.jp/university/other/access.html> (教室未定)

〒811-1313 福岡県福岡市南区日佐3丁目42-1

第4回東アジアキリスト教交流史研究会

シンポジウム「世紀転換期と東アジアのキリスト教一日清・日露戦争をめぐって」に寄せて

李省展（東アジアキリスト教交流史研究会代表）

古くから東アジア交流の要所であった九州北部、福岡で今回、第4回東アジアキリスト教交流史研究会を皆様と共に開催できることを、運営委員一同本当に喜んでおります。

世紀転換期に生じた9・11は、21世紀の世界に大きな影響を及ぼし、及ぼすであろうと思われませんが、19世紀末から21世紀初頭にかけて、東アジアで生じた日清・日露戦争がその後の歴史に及ぼした影響もまた、20世紀を振り返るにあたり、要となる歴史的な事象であったといえると思われまふ。

周知のようにアヘン戦争を端緒として、東アジアは大きな変動を経験せざるを得ませんでした。特に世紀転換期には、戦争と共に、朝鮮における東学、中国における義和団、日本での草の根ナショナリズムの高まりの極みであった日比谷焼打ち事件などの民乱もまた生起しています。帝国主義、植民地主義、排外主義、ナショナリズムが錯綜し、東アジアにおける利害関係が複雑に絡み合う時代であったといえるでしょう。

さてこの時期の東アジアのキリスト教はどのような位相にあったのでしょうか。関東事務局では今回、「世紀転換期の東アジアのキリスト教一日清・日露戦争をめぐって」というシンポジウムを企画しました。現在、靖国神社問題、領土問題、教科書問題、「慰安婦」問題をめぐって、東アジアの対立が顕在化しているこの時期であるからこそ、改めて20世紀への転換期に、戦争協力を初めとする、キリスト教が抱えもったさまざまな問題を東アジアレベルで振り返りつつ、皆様と共に論議してみたいと思います。

「不敬事件」「文部省訓令12号問題」「非戦論」、慰問袋、独立協会、リバイバル、愛国啓蒙運動、安重根、興中会、広州蜂起、変法運動、百日維新、義和団運動など、いくつかのキーワードを想起しても想像力が喚起されるのではないのでしょうか。

今回、会場を提供くださった福岡女学院大学と徐亦猛氏に感謝するとともに、会員の皆様の積極的な参加を呼びかけたく思います。

【プログラム】

7月25日（金）

- 13:30～ 受付
- 14:00～ 開会・総会
- 14:30～ 研究発表Ⅰ
- 16:30～ 休憩（20分）
- 16:50～ 研究発表Ⅱ
- 19:00～ 夕食（懇親会）

7月27日（土）

- 9:00～ シンポジウム「世紀転換期と東アジアのキリスト教―日清・日露戦争をめぐって」
パネリスト（予定） 一色哲・星野靖二・洪伊杓・渡辺祐子
総括討論者 李省展・徐正敏
- 12:30～ 閉会式

研究発表について：全体で6名の発表者を募ります。1人当たりの発表時間は質疑を入れて30分とします、発表者多数の場合は事務局で内容や地域のバランスを勘案し選抜いたします。なおプログラムや発表者の持ち時間は、発表申し込みの状況によっては変更する可能性があることをご承知おきください。

参加費：会議費 1000 円 懇親会費 4000 円（希望者のみ）

全日程参加しない方については、研究会のみ参加、懇親会、研究会に参加など、各人のご予定に合わせて請求いたします。

宿泊につきましては、各自福岡女学院近くのホテル等を予約してください。

連絡先

- ・ 東アジアキリスト教交流史研究会アドレス：CRHEACS@gmail.com
- ・ 東京事務局 渡辺祐子のアドレス：ywata@gen.meijigakuin.ac.jp
- ・ facebook「東アジアキリスト教交流史研究会」にもぜひアクセスしてください。